

滝高科学部&サイエンスアクションチーム

石狩ビーチコーマーズ

IBC 春の海辺の漂着物 4/21

いしかり砂丘の風資料館 主催 野外講座「石狩ビーチコーマーズ／春の海辺の漂着物」に参加してきました。そもそも、「ビーチコーミング」って何？と思う人が多いでしょう。ビーチとは英語で Beach「砂浜、浜辺」のことです。コーミングのコームは英語で Comb「くし」の意味です。

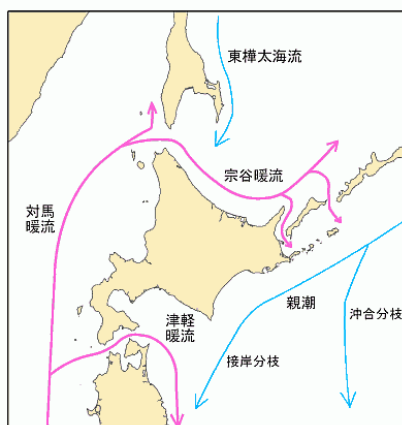
海岸には、貝殻・海藻・流木などの自然物から、ガラス浮き・使い捨てライター・プラスチック玩具などの人工物まで、様々な漂着物が打ち上げられます。海岸にたどり着くこのような漂着物を集めたり、調べたりすることをビーチコーミングといいます（海岸（ビーチ）をくしの目のように細かく見る（コーミング）ことに由来する）。つまり、ビーチコーミング（BC）とは、浜辺の漂着物を観察・採集して、海と人間について考える、知的な遊びのことをいうのです。海と陸のはざまに打ち上げられた漂着物から、海の環境変化の最前線を読み取ることができます。また、石狩浜は、石狩川の河口がある場所。海と川のつながりも学ぶことができます。

午前中に石狩浜を約1時間BCし、資料館に帰着。ボランティア職員の方々から、豚汁をご馳走になり、その後、採取物の合評会を行いました。

日本近海の海流と北海道の海流



石狩浜をスタート、石狩川の河口まで約3kmをビーチコーミングしてきました。



漂着物は、
渚の百科事典である
漂着物は、
海からの手紙である

BCを行って、海洋のことに意識を巡らせてみると、日本近海の海流の流れがどうなっているのかも分かります。



各々が採取した天然・人工の漂着物を、資料館に持ち帰り、それがどこから流れ着いたものなのか？何なのか、採集物の紹介・正体の議論をしました。各種様々な分野が専門の学芸員さんが、何人も参加しているので、かなり具体的にその正体が判明していました。ボランティア職員の方々から、豚汁をふるまっていたいただき、ご馳走になりました。たいへんありがとうございました。



BC中の滝高生たち



石狩浜を汲まなく参加者全員で探して、琥珀は 20 個ほどを採取しました。



タートルバイトの人工物を発見(マイクロプラスチックの問題へと繋がってきます)



フジツボは貝の仲間ではなく甲殻類に分類されるとのこと



午後からは、北上し望来海岸にて、珊瑚と貝の化石などを採取してきました。ここでは天然の原油を採取できる場所もあります。海岸にはこんな大きな冷蔵庫が漂着していた！？

【本日の採取物】

オカメブツク、コハク（参加者全員で約 20 個くらい？）、タートルバイトのチューブ、フナクイムシの食痕付き流木、約 800 万年前の流木が化石化した石（フナクイムシ（貝の仲間）の食痕付）、ウミサボテン、バカガイ、サクラガイ、ツメタガイ（砂茶碗）、カキ、バカでかいフジツボ（ミネフジツボ）、ホッキガイ（ウバガイ）、中国産タバコ入り缶、断熱材用プラスチックの欠片、韓国製のシリコンボンドの容器、中国・韓国・ロシア製の人工漂着物、函館の曽根小児科のプラスチック容器、焼酎とつくりの欠片（明治 15 年前後、新潟県で焼いたもの、幕末～明治 30 年位の間に、約一千万個作られた、日本酒じゃなくて、焼酎の徳利とのこと）、醤油鯛、パイプ洗浄のスポンジ、ガラス浮子の破片、etc...